



# 家庭数配付

学校教育目標 ～「まち」とともに歩み、ともに学び自立できる子どもをめざします～

	<h1>学校だより</h1> 	平成28年11月30日 横浜市立大曽根小学校 TEL 542-1785 FAX 541-0949
---	---	---

## 一人ひとりを大切にできる学校に

がっこうちょう 学校長    みつはし じゅんこ 三橋 淳子

まちのそここに咲き始めた山茶花の花を見ると、童謡「たきび」を思い出します。季節の変化を知る機会はずいぶんありますが、さて、子どもたちが大人になったときにふと口ずさむ曲はどのような曲になるのでしょうか。

この秋の校内の読書週間の際、先生のおすすめの本コーナーがあるとのことで、今年度の「第62回 青少年読書感想文全国コンクール」小学校中学年の課題図書である、『二日月 ふつつき』（作：いとうみく 絵：丸山ゆき）を紹介しました。障害のある妹に対する主人公の様々な思いや行動と家族の姿がていねいに描かれた物語です。その中に、友達とさりげない言葉を聞いて「嫌な気持ちになる」という場面があります。一度口から出た言葉は戻ってきません。この、「さりげない」言葉が気付かぬうちに相手を傷つけることがあることを、相手に言葉として伝える前にその言葉で相手はどう受け取るだろうかと想像することを、常に忘れてはいけなと、改めて思います。

大曽根小学校では、12月5日から9日の一週間を人権週間として、学年に応じた取組を振り返り、全校に発表する時間を持ちます。今年度の大曽根小学校の人権教育のねらいは次の通りです。

互いに認め合い、偏見や差別を許さない子の育成

【低学年】自分のよさに気づき、友達と仲良くする子

【中学年】自分のよさを知り、友だちのよさをもっと知ろうとする子

【高学年】自分のよさを生かして、誰とでもよりよい人間関係をつくろうとする子

偏見とはかたよったものの見方、差別とは偏見などによって差をつけ、一方を他よりも価値の低いものとして扱うことと辞書にあります。子ども達にとって、学年に応じた言葉の理解はもちろんですが、本当の意味での理解につながる取組にするとともに、自分自身のよさを見つめること、相手のよさに目を向けること、それぞれが一人の人間として大切な存在であることについて考える時間にしていくことができたらと思います。

自分はかけがえない存在であるという自己肯定感、自分はみんなの役に立っているのだという自己有用感をもつことで、子ども達はしっかりと自分の力で進んでいくことができます。個性や違いを認め合うことについて、ぜひ、ご家庭でもお子さんと話す時間をもっていたきたいと思えます。

誰もが安心して豊かに生活できるよう、職員は授業研究や日々の研修の中で学び、実践につなげるよう努めています。保護者の方の自線で、地域の方の自線で、何かお気づきのことがありましたら、どうぞお声かけください。ご一緒に考えて参りたいと思えます。

11月も子ども達は様々な場面で活躍しました。各学年、行事に向けて準備を重ね、当日を迎えていました。授業の中でも、たくさんの「できた」「わかった」の笑顔が見られました。また、11月12日の地域防災訓練には全校の子ども達が学年に応じた形で参加させていただきました。学校にとって、とても有意義な時間となりました。ありがとうございました。今後とも、本校の教育活動にご理解とご支援のほど、よろしくお願いたします。